

出穂後の通水管理で登熟向上を目指そう!!

玄米外形の発達

(出穂後5日)

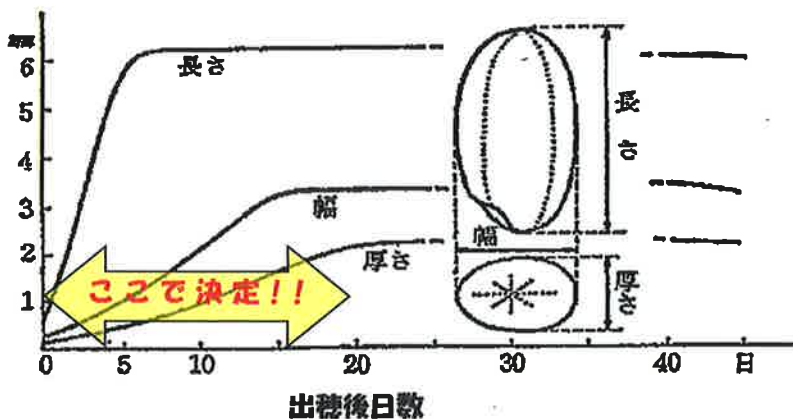
玄米の**長さ**が決定!

(出穂後15日)

玄米の**幅**が決定!

(出穂後20日)

玄米の**厚さ**が決定!



登熟の必須要素

大粒にするには
どうすればよいか?

- ★日射量 養分やデンプンを生成
- ★気温 20℃～25℃がベスト! 高すぎると稲自身の消耗が増える
- ★土壌養分 N(窒素)だけでなく、K(カリ)も登熟向上に必要
- ★灌水量

出穂期以降の人為的な
管理はムスカシイ...

上図のように、出穂後20日間は特に要注意!!

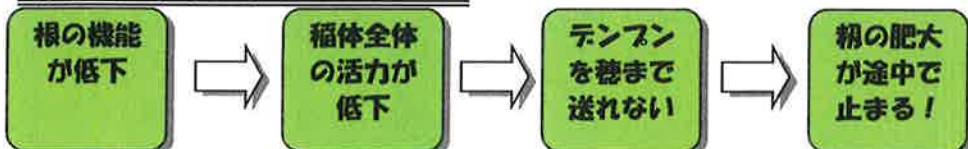
今からできること
それは...

稲は1日5トン
(10aあたり)
もの水を必要
とします!!

こまめな通水管理で 乳白粒・胴割粒を防止しよう!!

- 収穫5日前まで、間断通水を行いましょう。
- 3日おきの間断通水で田面を乾かさないことが重要です。
- 水はけの悪い圃場では常時湛水は避けて下さい。
- 当面気温が高く推移する予報が出ています。通水はなるべく水温の低い夜間に行い、稲体の消耗を抑えましよう。
- 台風の接近時にはフェーン現象時には、事前に入水して下さい。

落水が早すぎると...



収量・品質
の低下を
招く!!



いもち病の発生に注意!!

- 南加賀管内では『葉いもち』の発生が確認されています。
- 今後の天候によっては、被害の拡大が予想されるため、

至急、ほ場を確認し、防除を徹底してください!



【葉いもちの病斑】

中央部が灰白色で周辺は褐色の紡錘形。葉の裏面は灰色。

胞子は夜間に飛散し、気温が20~30℃で葉が結露などにより10時間以上濡れていれば感染する。25℃前後で日照不足の気象条件が続くと上位葉に進展し、穂いもちの発生要因となる。

① こまめにほ場を見回りし、早期発見に努めましょう!

- 常発地や葉色の濃いほ場を重点に見回りしてください。
- 予防剤を施用していないほ場や、いもち病に弱い品種は、特に注意が必要です。
※ 特に注意を要する品種：ゆめみづほ、ゴシヒカリ、ひやくまん穀

② 葉いもちを確認したら、ただちに防除しましょう!

- 周辺ほ場の発生状況も確認し、広範囲に発生している場合は、地域ぐるみで防除してください。
- ざり込み症状を呈するほ場では、4~5日後に薬剤の再散布を行ってください。

ブラシン粉剤DL	4kg/10a	使用時期：収穫7日前まで 成分数：2成分 使用回数：2回以内 ※ 特別栽培等の場合は、農薬の成分及び回数にご注意ください。
----------	---------	--

※ 梅雨の晴れ間を見計らい、散布後3~4時間の無降雨が続くタイミングで散布

③ 葉いもち発生の有無に関わらず、基幹防除を徹底しましょう!

※ 「斑点米カメムシ」にも注意!!

石川県内全域において、斑点米カメムシの多発注意報が発表されております。7月の気温は
 平年並み~高い予想で、今後カメムシ類の増殖・活動が活発になると推測されます。

防除の徹底で品質低下(斑点米)を防止しましょう!

【カメムシ防除に特化した防除時期】

- 1回目防除：出穂7~10日後
- 2回目防除：1回目防除の7日後(出穂14~17日後)